
 今月の筆者紹介

水野 幸男 (正会員)

昭和4年生. 昭和28年東京工業大学卒業, 同年日本電気(株)入社. 昭和37年工学博士. 昭和48~49年本学会理事及び常務理事. 現在, 日本電気(株)情報処理基本ソフトウェア開発本部長. 主な研究テーマ, アナログコンピュータ, デジタルシステムの開発研究, その後, 主にソフトウェアの開発およびその管理, 市場・製品計画, オペレーションズ・リサーチの研究に従事.

木村 泉 (正会員)

昭和10年生. 昭和35年東京大学理学部物理学科卒業. 昭和40年同大学院修了, 東京大学助手. 昭和42年理学博士, 東京教育大学講師. 昭和46年東京工業大学助教授, 現在に至る. 学位論文は非同期式スイッチング回路の理論的研究に関するもの, また近来はプログラミング方法論, ソフトウェア設計における人間対機械の関係に関する諸問題, 専門家向けの計算機教育などに興味をもっている. 興味分野の広さと手法の多様性が身上か? 訳書, Hopcroft 他「言語理論とオートマトン」(共訳), Foster「自動構文解析」. ACM, IEEE, 電子通信学会, 日本数学会各会員.

和田 英一 (正会員)

昭和6年生. 昭和30年東京大学理学部物理学科卒業, 昭和32年~昭和39年小野田セメント(株)調査部計数課. 昭和39年~現在東京大学工学部計数工学科. 興味の対象はシステム・プログラムほぼ全般.

寛 捷彦 (16巻6号参照)**筑後 道夫** (正会員)

昭和8年生. 昭和32年京都大学電気工学科卒業. 現在日本電信電話公社横須賀電気通信研究所処理プログラム研究室長, コンパイラやプログラミング技術の研究に従事. 電子通信学会会員.

松下 温 (16巻3号参照)**山崎 晴明**

昭和23年生. 昭和45年名古屋大学理学部数学科卒業. 同年より沖電気工業(株)において, 日本語情報処理, データ通信システム等のソフトウェアの開発に従事, 現在同社ソフトウェア事業部に勤務している. 特にシステムの効率, 信頼性等の評価, 設計に興味を持っている. 日本 OR 学会会員. 現在イリノイ大学大学院コ

ンピュータ・サイエンス学科に留学中.

丹下 栄二 (正会員)

昭和23年生. 昭和46年名古屋大学理学部数学科卒業, 同年沖電気工業(株)入社. 入社後, オンライン用 OS 言語の開発, 設計に従事. 現在, プログラムの表現論などに興味を持っている.

鈴木 久子

昭和10年生. 津田塾大学数学科を卒業の後, 日本アイ・ビー・エム(株)に入社. データ・センターに所属し主にプログラム・分析関係を担当の後, 現在 RCS センターに所属.

大島 裕 (正会員)

昭和10年生. 昭和34年熊本大学工学部電気工学科卒業. 同年日本電信電話公社入社, 電気通信研究所所属, 電子交換機呼処理プログラム構成法の研究. TSS 用 OS の実用化, コンピュータ・ネットワークの検討などに従事. 現在, 同公社横須賀電気通信研究所データ通信研究部制御方式研究室長. 電子通信学会会員.

益田 隆司 (正会員)

昭和14年生. 昭和38年東京大学工学部応用物理学科卒業. 40年同修士課程修了. 同年より(株)日立製作所にて, オペレーティング・システムの研究開発, 計算機システムの性能評価の研究に従事. 現在同社システム開発研究所に勤務している. その間カーネギー・メロン大学に留学. 昭和47, 49年度情報処理学会論文賞受賞, OR 学会, 電子通信学会, ACM 各会員.

井上 謙蔵 (正会員)

大正9年生. 昭和19年九州大学理学部物理学科卒業, 東京大学理工学研究所, 物性研究所, 富士通(株)を経て, 昭和48年9月より東京工業大学理学部(情報科学科)教授, 現在に至る. 工学博士. プログラム用言語, コンパイラ, ソフトウェアの作成自動化等の研究に従事. 著書「コンパイラ・コンパイラ」(産業図書)など.

所 真理雄 (正会員)

昭和22年生. 昭和45年慶応義塾大学工学部卒業. 昭和47年同修士課程修了, 昭和50年同博士課程修了. 現在同大学工学部電気工学科助手, 工学博士. 計算機アーキテクチャ, CAD, 拡張可能言語などの研究を行っ

ている。最近特にマイクロコンピュータに興味を持っている。電子通信学会会員。

村岡 洋一 (16巻1号参照)

稲田 伸一 (正会員)

昭和8年生。昭和30年大阪大学理学部物理学科卒業。同年日本国有鉄道入社。鉄道技術研究所にて、コンピュータシステムの運転計画、制御への応用を研究。この間ケース工業大学にて、電気工学科修士。現在、日本国有鉄道電気局にて、コムトラック（新幹線運転管理システム）の開発を担当。電気学会、計測と制御学会各会員、現在本学会常務理事。

戸田 巖 (正会員)

昭和9年生。昭和31年東京大学工学部電気学科卒業。同33年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。現在、横須賀電気通信研究所データ通信研究部調査役。昭和39年工学博士。電子通信学会会員。

新井 克彦 (正会員)

昭和10年生。昭和33年東京大学理学部数学科卒業。同年日本電信電話公社電気通信研究所に入所。MUSASINO-1のプログラム、料金計算用計算機 CM-100 のソフトウェア、PL/コンパイラ、DIPS-1 OS の研究実用化

に従事。現在同公社横須賀電気通信研究所データ通信研究部データ通信方式研究室長。電子通信学会会員。

大島 昭

昭和7年生。昭和31年慶応義塾大学文学部卒業。同34年同法学部法律学科卒業。日本放送協会入局後、番組編成部門を経て、同38年NHK-Topics 開発の当初段階より参画、設計のチーフとして主として業務設計の責任を持つほか、テスト段階では、システム・テストのチーフとしてテスト計画の立案・実施の責任を持つ。Topics運用開始以降、システム設計・開発の統括責任者としてシステムの維持・改善に当る。昭和44年以降「放送センタ移行」のプロジェクト・マネージャとしてシステムの移行と転換の統括をおこなう。現在日本放送協会経営情報室主管。Topics-II 第2次改善の統括責任者として、その設計・開発の責任を負う。

中井 直男 (正会員)

昭和7年生。昭和33年東京大学数学科卒業。同33年日本アイ・ビー・エム(株)応用科学係として入社。その後システムズ・エンジニアリング部長、システム開発部長を経て現在に至る。その間、新聞プロジェクト・マネージャとして、新聞製作のコンピュータ化に従事した。現在 DP サービス担当マネージャ。

研究会

○第6回システム性能評価研究会

{昭和50年9月5日(金)、於機械振興会館地下3階1号室、出席者35名}

(1) ソフトウェア・モニタ

岡崎世雄 (日本IBM)

{内容梗概}

コンピュータが大型化し、よりコンプレックスなOSでサポートされるにつれてシステムの効率を分析評価することは、ますます困難となりつつある。

システムの効率分析のために必要なデータ、すなわちシステム全体あるいはある特定のイベントに対する

アクティビティを測定するために、ソフトウェア・モニタと一般に呼ばれるプログラムが使われる。

ここではソフトウェア・モニタで使われる手法およびIBM OS用に開発されたソフトウェア・モニタの内容を紹介した。(システム性能評価研資料 75-11)

(2) データ・ベース・システムの性能解析
梨山 修, 村井正和, 河津誠一 (横須賀通研)

{内容梗概}

データベース・システムの性能を解析するために、トランザクション・リソース・モデルの概念を利用して、非スケジューリング・モデルとスケジューリング・モデルの2つの解析モデルを作成する。この2つ

のモデルを使用して、トランザクション・スケジューリング、排他制御方式等のスループット、応答時間に与える影響を解析する。さらに、このモデルの活用例として、銀行業務と登録業務を行うシステムを取り上げ、サービス・システム特性に最適な方式の選択方法について考察した。(システム性能評価研資料 75-11)

○第13回データ・ベース研究会

{昭和50年9月11日(木)、於機械振興会館地下3階1号室、出席者40名}

(1) COBOL データ・ベース機能

植村俊亮(電総研)

〔内容梗概〕

長年にわたる審議をへて、COBOL データ・ベース機能がCODASYL COBOL の正式文法になった。すでに正式に公刊されているデータ・ベース記述用DDLと合わせて、CODASYL のデータ・ベース用共通言

語体系が完成した。スキーマとサブスキーマ、データ独立、データ構造などの観点からこの言語体系を分析し問題点をさぐった。

(データ・ベース研資料 75-24)

(2) CODASYL 型の DBMS-DMS 1100 について

原 潔(ユニバック)

〔内容梗概〕

CODASYL のデータ・ベースに関する活動などにより、データ・ベースに対する関心が高まっている。標準化の動きも現われている現在、CODASYL 型のデータ・ベース・マネジメント・システムもいくつか開発されている。そのような一つとしてユニバックのDMS 1100 について、それがどのような形でCODASYL 提案の実現になっているのか、またそのユーザがどのような使い方をしているかについて述べた。

(データ・ベース研資料 75-24)

本 会 記 事

○入 会 者

昭和50年9月の理事会で入会を承認された方々は以下のとおりです(会員番号順、敬称略)。

【正会員】町田哲夫、飯島 貢、上田典男、吉田勇、吉田真澄、岡本 茂、高野 彰、田中康仁、宮腰義和、福富正彦、中野勝之、五丁龍一、山川紳一、中野守雄、林 泰樹、熊野英文、宮沢信一郎(以上17名)

【学生会員】阪口和久、田中和生、吉村雅典、吉田満、河本幸人、佐野耕一、吉本雅博、鏑木孝和、前川健次、原田 実(以上10名)

○採用原稿

昭和50年8月に採用された原稿は以下のとおりです(採用順、カッコ内は寄稿年月日)。

論 文

▶小沢一雅、田中幸吉：Band 相関法による印刷文字

OCR の設計理論 (50.6.10)

▶長尾 真、辻井潤一、田中一敏：意味および文脈情報を用いた日本語文の解析一名詞句・単文の処理 (50.4.28)

▶長尾 真、辻井潤一：意味および文脈情報を用いた日本語文の解析一文脈を考慮した処理 (50.4.28)

▶馬渡鎮夫：奇数次の Cardinal Spline を求める Algorithm について (49.4.16)

▶大須賀節雄：知識構造に基づく機械的推論規則について (50.6.16)

▶長尾 真、水谷幹男、池田浩之：日本語文における重要語の自動抽出 (50.7.16)

▶的場裕司、吉岡信夫、佐藤武久：プログラミング教育用擬似計算機システムについて (50.2.3)

▶井口 健：Aitken の δ^2 -過程とそれに類似な加速過程 (50.6.11)

昭和 50 年度役員

会 長	北川敏男
副 会 長	猪瀬 博, 廣田憲一郎
常 務 理 事	相磯秀夫, 稲田伸一, 後藤英一, 鈴木錠造, 高橋延匡
理 事	山本卓真, 伊吹公夫, 大前義次, 落合 進, 佐川俊一, 三浦武雄, 山本欣子, 渡部 和
監 事	海宝 顕, 長森享三
関西支部長	田中幸吉
東北支部長	高橋 理

編 集 委 員 会

担当常務理事	相磯秀夫
担 当 理 事	伊吹公夫, 渡部 和
委 員	石黒栄一, 石野福彌, 宇都宮公訓, 小野欽司, 大畑 巖, 岡田康行, 片山卓也, 亀田寿夫, 木村 泉, 岸 慎, 首藤 勝, 田中穂積, 高橋義造, 武田俊男, 棟上昭男, 名取 亮, 中西正和, 西木俊彦, 野末尚次, 癸田 弘, 服部幸英, 藤田輝昭, 古川康一, 益田隆司, 松尾益次郎, 松下 温, 三上 徹, 三木彬生, 村上国男, 森 敬, 山下真一郎, 山田邦雄, 米田英一